

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

株主優待

当社は株主優待制度として、毎年2月20日現在の株主様名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、株主様ご優待品を進呈いたしておりましたが、2022年6月28日付の開示でお知らせしましたとおり、現在の経営環境並びに将来への成長投資に向け、財務状況を改善することが最優先課題であると考え、慎重に議論を重ねました結果、2023年2月20日を基準とする株主優待より休止しております。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値向上に取り組むとともに、株主優待制度につきましては、業績の安定化並びに財務状況の改善を成し遂げたのちに再開させて頂く予定です。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

報告書WEB化のお知らせ

株主の皆様へご送付しておりました報告書につきましては、地球環境等を配慮した省資源化の観点から、第39期第2四半期より紙面による発送を取り止め、当社ウェブサイト (<http://www.palemo.co.jp/ir/stockholders.html>) に掲載いたしております。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

上場株式等の配当等に係る10% (所得税7%、住民税3%) 軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率(所得税7%、住民税3%)は廃止され、本来の税率である20%(所得税15%、住民税5%)となりました。これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- *配当金に関する支払調書
 - *単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

株式市場移行のお知らせ

当社株式は、東京証券取引所並びに名古屋証券取引所の市場再編により、東京証券取引所市場第二部からスタンダード市場へ、名古屋証券取引所市場第二部からメイン市場へ移行いたしました。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

~ Doing it ~

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



次なる成長に向け 「新中期経営計画」を推進してまいります

当社グループにおきましては、2023年2月期より、業績の早期回復を目的とした3ヶ年の「中期経営計画」に取り組み、初年度には2期連続の赤字から黒字へと回復を果たすなど一定の成果をあげることができました。しかしながら2年目となる当連結会計年度においては、コロナ収束後のマーケット環境の変化、原価高騰や物価上昇等の影響もあり、2期連続の黒字を確保できたものの、減収、減益という結果となりました。こうしたことから、最終年度である今期の目標達成は難しいと判断し、これまでの「中期経営計画」を見直し、黒字化からの次なるフェーズへと成長させるべく「新中期経営計画」を策定し、アパレル、雑貨における収益の二本柱体制の確立に向け、グループをあげて取り組んでおります。

代表取締役社長 **福井 正弘**

指針 正しい経営 | ローコスト経営
安定成長 | 人財経営

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第39期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第39期におけるわが国経済は、経済活動の正常化に伴い各種イベントの復活が相次ぐなどリバウンド需要が高まりを見せ、個人消費は緩やかな回復が続いております。またコロナ前と同水準まで回復が進むインバウンド需要にも支えられ、景気は回復基調となりました。一方でウクライナ侵攻、パレスチナ紛争などの世界情勢の不安定化リスクやエネルギー価格の高騰のほか、円安による物価の上昇などに加え、1月に発生した能登半島地震による深刻な被害など、消費者の節約志向や自粛マインドの強まりが懸念されるなど、先行きは不透明な状況が継続いたしました。

当社グループが属する専門店業界におきましては、コロナ禍で生活や働き方が様変わりしたことや、サステナビリティの流れもあり、価格と価値のバランス、品質の良さや長く使える商品が選ばれる傾向が強まりました。また、消費行動はリアル店舗での購買が回復し、引き続きOMO（オンラインとオフラインの融合）が求められる状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「中期経営計画」（事業再構築計画）の2年目として、安定的な収益の二本柱体制（アパレル、雑貨）を確立するための事業構造改革

を更に推進させるとともに、安定売上確保のための仕入れ、在庫管理を行うガバナンス体制の強化を推し進めてまいりました。

第39期におきましては、コロナ収束後の外出着需要の回復を背景にアパレルの収益改善が進んだものの、雑貨については成長戦略の方針のもと店舗数は拡大しましたが、マーケット環境の変化に対応した商品MD（マーチャングアイジング）の修正が図れず、総じて苦戦する結果となりました。

第40期におきましては、引き続き収益の改善が進んだアパレルにおけるトップラインの向上と、雑貨における商品MDの再構築を進めるとともに、成長事業への投資を継続することにより収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

なお当期末配当金につきましては、足許の財務状況を勘案し、前期末に引き続き無配とさせていただきますことを謹んでご報告申し上げます。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、厳しい経営環境が続きますが、可能な限り早期に復配ができるよう業績の改善、安定化に向け尽力してまいります。

そして今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q1

当連結会計年度の業績について お聞かせください

当連結会計年度の業績は、売上高159億41百万円（前年同期比9.0%減）、営業利益3億62百万円（前年同期比31.2%減）、経常利益3億36百万円（前年同期比42.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益4億11百万円（前年同期比26.7%減）となりました。

当連結会計年度のアパレルにおきましては、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられて以降、人流の回復に加えて春先からの気温上昇と、7月以降猛暑が続いたこともあり、初夏、夏シーズン商品の需要が高まり、売上を伸ばすことができました。そして下半期に入りまして、記録的な残暑や暖冬の影響が懸念されましたが、適正な仕入れ、在庫管理の徹底によるガバナンス体制の強化が奏功し、安定的な売上、利益を確保することができました。

雑貨におきましては、300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」において、気温の上昇とともに暑さ対策、紫外線防止対策等の夏シーズン商品の販売が好調であったものの、コロナ禍における家ナカ需要の反動から、生活雑貨、衛生商品等を中心に販売が縮小したほか、競合他社の出店急拡大の影響から大幅な減収となり、全社の既存店売上高前年同期比は97.5%となりました。

利益面におきましては、アパレルにおいて価格訴求から価値訴求へと品揃えの改善が進み、値下げ販売の抑制に努めたことによりブローパー消化率も高まるなど、原価高騰の影響を最小限に抑えることができました。また、仕入れ、在庫のガバナンス体制の取り組みが奏功し、シーズン商品の販売も計画通り進んだことから、在庫処分損の抑制も図られ利益確保に貢献できました。一方、雑貨の「illusie300」につきましては、売上高の減少に加え価格への転嫁も難しく、継続的に原価高騰の影響を受けることとなりました。

売上総利益率につきましては、前年同期に比べ0.3%低い51.9%となりましたが、原価高騰の影響を想定し通期計画を51.8%としていましたので、ほぼ計画通りで着地しております。また経費面におきましては、前期にアパレルの不採算店舗の退店が概ね終了していることや、本社、本部の徹底した経費削減効果もあり、営業経費は前年同期比91.9%となり、金額にして6億99百万円の削減となりました。

店舗の出退店におきましては、雑貨の「illusie300」を中心に新規で17店舗を出店し、不採算店舗の退店に加え商業施設の閉鎖や契約満了に伴う23店舗の退店をした結果、当連結会計年度末現在の店舗数は277店舗となりました。

当連結会計年度は「中期経営計画」の2年目として、コロナ収束後のマーケット環境変化への対応に注力してまいりましたが、想定以上の店舗数の減少、雑貨の立て直しを考慮しますと、当初公表した「中期経営計画」最終年度の数値目標達成は難しいと判断しました。今期におきましては、「新中期経営計画」を推し進める中で、アパレルにおけるトップラインの向上と、早期に雑貨の立て直しを図ることで、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

Q2

「新中期経営計画」の施策について お聞かせください

当社は今期をスタートとする3ヶ年の「新中期経営計画」を策定しており、黒字化からの次なるフェーズとして、アパレル、雑貨における収益の二本柱体制の確立に向け「成長戦略」、「ガバナンス強化」、「社内インフラ/労働環境の改善」の3つに取り組み、最終年度の2027年2月期には、売上高の規模についてはコロナ前の実績を下回る180億円となりますが、営業利益ベースでは同水準となる7億円まで回復させる考えです。

初年度である今期の施策として「成長戦略」につきましては、アパレル店舗についてはEC（ネット通販）との連携強化を目的として、リアル店舗のブランドを「LUDIC PARK（ルディックパーク）」と「Re-J&SUPPURE（リジェイアンドスプル）」へ転換を進め、ブランドの認知度向上を図るとともに、大都市圏を中心に新店を再開したい考えです。また雑貨の300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」につきましては、マーケット環境の変化に対応した商品MD（マーチャングアイジング）の修正を進めるとともに、外出需要に重点を置いた派生業態のMD開発など、競合との差別化と収益改善を図ります。また、アパレル、雑貨ともに事業規模の拡大と収益力の向上を目的に、新規出店に加え、旗艦店を中心に改装も実施するなど、既存店の活性化にも努めてまいります。そしてEC発のZ世代向けブランド「NOEMIE（ノエミー）」に関しましては、1号店を原宿竹下通りに出店以降、業績は順調に推移しており、大阪のヘップファイブに2号店、この春には横浜ビブレに3号店をオープンし、アパレルの成長ドライバーへと進化しています。引き続きECとリアル店舗の相互送客を進めるとともに、越境ECへの取り組みも本格化するなど、更なる成長につなげたいと考えております。

「ガバナンス強化」につきましては、アパレルについては安定的な売上と利益改善が進んでおりますので、今後は雑貨の「illusie300」を中心に、仕入先との関係強化、新規取引先の開拓を進めるとともに、自社企画商品による競合他社との差別化を図るなど、ホールディングス、事業会社一体となって適正な仕入れ、在庫コントロールの精度を高めることにより収益の改善に努めてまいります。

「社内インフラ/労働環境の改善」につきましては、「社内インフラの改善」として、商品・顧客管理、そして仕入れ・発注業務に関するシステムの刷新を図ることで、アパレルについてはネット通販とリアル店舗におけるOMO（オンラインとオフラインの融合）の推進、雑貨については単品管理、個店対応の強化に努めてまいります。また、「労働環境の改善」につきましては、新卒採用の再開による人材確保、デジタルツールを活用した人材教育にも取り組み、持続的安定成長への基盤構築に注力してまいります。

以上、今期におきましては、マーケット環境変化への対応、物価高騰による生活防衛意識の高まり等、引き続き厳しい環境が続くことを前提に、業績予想につきましては、売上高158億70百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益4億40百万円（前年同期比21.4%増）、経常利益4億15百万円（前年同期比23.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益4億20百万円（前年同期比2.0%増）を見込んでおります。

アパレル事業の概況

General Condition of Apparel Business

アパレル事業におきましては、外出着需要の高まりから安定的な売上、利益の確保ができており、今期におきましてはEC(ネット通販)との連携強化に伴うブランド名の統一、マーケットニーズに対応した付加価値の高い商品の提供により、収益の更なる拡大と出店再開にも努めてまいります。

また、EC発のZ世代向けブランド「NOÉMIE(ノエミー)」につきましては、ECのみならずリアル店舗においても業績は順調に推移しており、今後は大都市圏への出店も視野に入れております。今期におきましても、ECとリアル店舗の相互送客を推進し、更なる成長につなげてまいります。

Recherie リシェリエ



「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

Re-J & SUPURE リジェイ/スプル



《Re-J》「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした「大人カジュアル」を提案するラージサイズSHOPです。

《SUPURE》「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にしたいラージサイズSHOPです。

LUDIC PARK ルディックパーク



遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

木糸土 モクシド / Hare no hi ハレノヒ



《木糸土》木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

《Hare no hi》「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

GAL FIT ギャルフィット



「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

Lilou de chouchou リルデシュシュ



いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

NOÉMIE ノエミー



普段も特別な日もかわいくいたい。扉を開くたびに「ときめきを感じる」お洋服で、クローゼットをいっぱいになりたい。そんな、あなたの願いに寄り添えるように「愛らしくて愛嬌のある魅力的な女の子」をテーマに、お砂糖菓子みたいな甘さと、ちょっぴりダークでかわいらしさのあるお洋服をあなたに提案します。

DAISY MERRY デイジーメリー



大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレでいたい女性に向けて…
かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのリガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

SUZUTAN スズタン



「エレガシー&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
レギュラー店舗	0	12	△1	105
ルディックパーク	0	2	1	32
リルデシュシュ	0	0	0	2
デイジーメリー	0	0	0	3
リシェリエ、ドスチ	0	3	0	19
ギャルフィット・スズタン他	0	5	△2	43
木糸土・ハレノヒ	0	2	0	5
ノエミー	0	0	0	1
ラージサイズ店舗	1	1	0	9
アパレル事業合計	1	13	△1	114

注:当期末店舗数に催事店舗は含まれておりません。

雑貨事業の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business

雑貨事業におきましては、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の出店が進行しており、前期末の144店舗から151店舗へ着実に拡大を続けております。

当連結会計年度におきましては、「illusie300」を15店舗出店しており、収益の拡大に向け積極的な事業構造改革を進めてまいりました。今期につきましては、引き続き「illusie300」の商品MD(マーチャндаイジング)の再構築に努めるとともに、マーケットニーズに適應した品種構成の見直しと、基軸となる生活雑貨商品の品揃えの充実を図ってまいります。

illusie300 イルーシーサンマルマル



「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

INCENSE インセンス



「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
イルーシーサンマルマル	15	9	1	151
インセンス	1	0	0	9
シベレット	0	0	0	1
雑貨事業合計	16	9	1	161
複合店(※)	0	1	0	2
全社合計	17	23	0	277

(※)複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

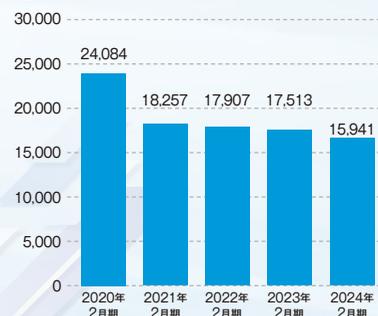
	当連結会計年度 (2024年2月20日現在)	前連結会計年度 (2023年2月20日現在)
■資産の部		
流動資産	5,631	5,609
固定資産	2,794	3,159
有形固定資産	773	927
無形固定資産	34	62
投資その他の資産	1,987	2,169
資産合計	8,426	8,769
■負債の部		
流動負債	6,246	6,959
固定負債	537	563
負債合計	6,783	7,523
■純資産の部		
株主資本	1,629	1,232
資本金	100	100
資本剰余金	2,234	2,249
利益剰余金	△700	△1,111
自己株式	△5	△5
新株予約権	13	13
純資産合計	1,642	1,245
負債及び純資産合計	8,426	8,769

連結キャッシュ・フロー計算書

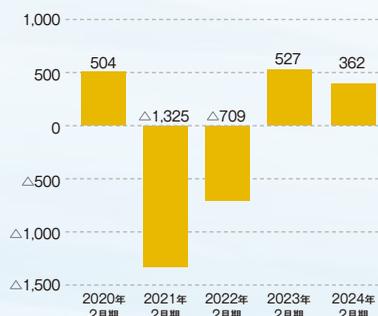
(単位:百万円)

	当連結会計年度 2023年2月21日から 2024年2月20日まで	前連結会計年度 2022年2月21日から 2023年2月20日まで
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	565	207
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△80	362
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△584	264
現金及び現金同等物の増減額	△99	835
現金及び現金同等物の期首残高	3,044	2,209
現金及び現金同等物の期末残高	2,945	3,044

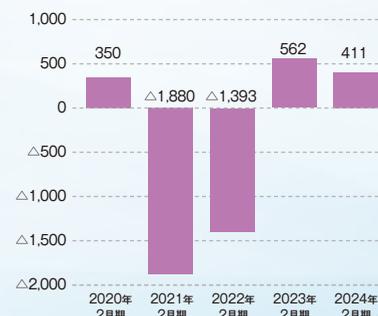
売上高 (百万円)



営業利益 (損失) (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (損失) (百万円)



連結損益計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 2023年2月21日から 2024年2月20日まで	前連結会計年度 2022年2月21日から 2023年2月20日まで
① 売上高	15,941	17,513
売上原価	7,663	8,372
売上総利益	8,277	9,141
販売費及び一般管理費	7,915	8,614
② 営業利益	362	527
営業外収益	21	104
営業外費用	48	50
経常利益	336	580
特別利益	256	17
特別損失	142	132
税金等調整前当期純利益	449	465
法人税、住民税及び事業税	12	13
法人税等調整額	25	△110
親会社株主に帰属する当期純利益	411	562

POINT

- 売上高は前連結会計年度に比べ15億72百万円減少の15億941百万円となりました。これは主に、行動制限緩和による外出需要の高まりを背景にAパレルの収益改善が進んだものの、コロナ収束後のマーケット環境変化への対応の遅れにより雑貨が苦戦したことによるものです。
- 営業利益は前連結会計年度に比べ1億64百万円減少の3億62百万円となりました。これは主に、雑貨における売上高の減少に加え、継続的に原価高騰の影響を受けたことによるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ3億58百万円増加の5億65百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益4億49百万円、減価償却費2億34百万円による資金の増加があった一方、棚卸資産1億93百万円の増加による資金の減少によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、80百万円の支出となりました。これは主に、新設・既存店舗の改装など有形固定資産の取得及び差入保証金の差入による支出2億10百万円、退店による差入保証金の回収2億41百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、5億84百万円の支出となりました。これは主に、借入金の返済による支出5億70百万円によるものです。

会社概要 (2024年2月20日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社
 設立 1984年11月22日
 資本金 1億円
 本社所在地 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号 名駅錦橋ビル6F
 従業員数 1,585名(グループ含む)
 (ナショナル社員135名、エリア社員他1,450名)
 事業内容 事業子会社の経営管理等
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2024年5月16日現在)

代表取締役社長 福井正弘
 取締役 香西雅弘
 取締役 永田昭夫
 取締役 田村富美子
 常勤監査役 土田新一郎
 監査役 今枝剛
 監査役 川口直也

注:取締役のうち、永田昭夫、田村富美子の両氏は社外取締役であります。監査役のうち、今枝剛、川口直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2024年2月20日現在)

発行可能株式総数	普通株式	27,350,000株
	A種優先株式	10,000株
発行済株式の総数	普通株式	12,051,384株
	A種優先株式	265株
株主数	普通株式	8,453名
	A種優先株式	1名

注:A種優先株式は、2024年4月30日付で近畿中部広域復興支援投資事業有限責任組合から、株式会社西松屋チェーンへ譲渡されました。

大株主 (2024年2月20日現在)

株主名	普通株式 持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社西松屋チェーン	2,087	17.35
東京短資株式会社	355	2.95
個人株主A	343	2.85
上田八木短資株式会社	299	2.48
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.37
日本証券金融株式会社	245	2.03
JPモルガン証券株式会社	234	1.94
個人株主B	229	1.90
GMOクリック証券株式会社	220	1.83
パレモ従業員持株会	174	1.44

注:持株比率は、当事業年度の末日における発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する割合であります。

株主構成 (2024年2月20日現在)

